

7. 地域で活躍する団体や企業等との連携

事例12.『「ラーメンの聖地、山形市」を創る協議会』（山形県山形市）「山ラー 街の給水所」プロジェクト

- 三重県にある『中華料理 吉珍』に掲示されていた
“しょうがくせいのみんなへ すいとうのおちやがなくなったり、あつくてのどがかわいたときは「おみずください！」といつでも入ってきていいからね！”というポップがきっかけ
- 山形市内にあるラーメン店(「山ラー」加盟店)のいくつかの店舗で、**下校時における給水・休憩ポイント**として小学生を受け入れる活動をスタート。
- 令和7年9月現在は**通学路にある約50店舗**が実施、**実施店舗については小学校を通じて周知している。**



▲「街の給水所」を提案した『麺や 一陽』

店主が、お昼の営業中に下校する小学生の姿を見て、暑さでのどが渇いたときに「おみずください！」と気軽に言える環境をつくりたいと考えた。「『ラーメンの聖地、山形市』を創る協議会」に提案し実現。

▼「おみずください！」の掲示



▲山ラーグッズ
山形市のラーメンを「山ラー」と名付け、PRを行っている。山形市民のラーメン愛を表すようなアイテムになってほしいという思いから販売。



▲山形市の多様なラーメンを紹介するWebサイト「#推しメンやまがた」
味や麺の種類から山形市内のお勧めのラーメンが多数掲載されている。

「『ラーメンの聖地、山形市』を創る協議会」 <https://www.oshimen-yamagata.jp/yamagata.html>
「#推しメンやまがた」 <https://www.oshimen-yamagata.jp/>

■苦労した点

「山ラー 街の給水所」は有志で行っているため、プロジェクトに参加できない店舗への配慮が一番の懸念点であった。誤解を招かない形での店舗への参加依頼や周知方法について比較的苦労した。

■工夫した点

小さい子が熱中症になると、重症化することもあると聞いていた。何かできないかなと思ったときに、**ラーメン店は冷水器が常備されているので**店に気軽に立ち寄ってもらえたらと考えた。